

新熊本合同庁舎B棟整備予算の復活計上について

新熊本合同庁舎は、平成23年3月の九州新幹線鹿児島ルートの特急全線開業を見据えた熊本駅周辺のまちづくりの核となる施設として、地元経済界が、一日も早い完成を待ち望む施設であります。

しかしながら、新熊本合同庁舎B棟整備費は、国の出先機関改革の検討が進められる中で、無駄（空き床）が生じる可能性があるとして、来年度の政府概算要求が見送られております。

一方、全国で3か所の合同庁舎の整備については、地方公共団体と連携し、空き床が生じないように対応することが可能になったとして、その関連予算が概算要求に盛り込まれております。

新熊本合同庁舎B棟は、熊本駅前の一等地に建設されるものであり、立地的にも、民間施設の入居も考えられることから、空き床が生じるとは考えられません。

また、万一、空き床が生じることになった場合、その利活用については、熊本県、熊本市が積極的に協力されることと伺っております。

新熊本合同庁舎の建設は、熊本城域にある現在の第一合同庁舎の移転後の跡地利用も見据えて、平成11年から、国、県、市、経済界が長い時間と知恵を絞って準備を進めてきた事業であります。

九州新幹線全線開業、平成24年4月の熊本市の政令指定都市への移行など、熊本は今、将来を左右する大きな転換期を迎えております。

現在、熊本市では、九州中央の拠点都市としての発展を果たしていくため「本丸御殿」をはじめする熊本城の復元整備や桜の馬場観光交流施設

「城彩苑」の建設など、熊本城を核としたまちづくりを官民一体となって、着実に推進しているところであります。

このような中、A棟が完成し、B棟の建設の発注が終わり、あと少しで完成という矢先での、今回の見送りには、私どもは驚きとともに、失望の色を隠せません。

以上、これまでの経緯や実情を踏まえて、地元待望の新熊本合同庁舎B棟の建設について、是非とも来年度予算へのご高配を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年11月

熊本商工会議所

会頭職務代行者

副会頭 古 庄 善 啓

熊本経済同友会

代表幹事 小 栗 宏 夫

代表幹事 大久保 太 郎